

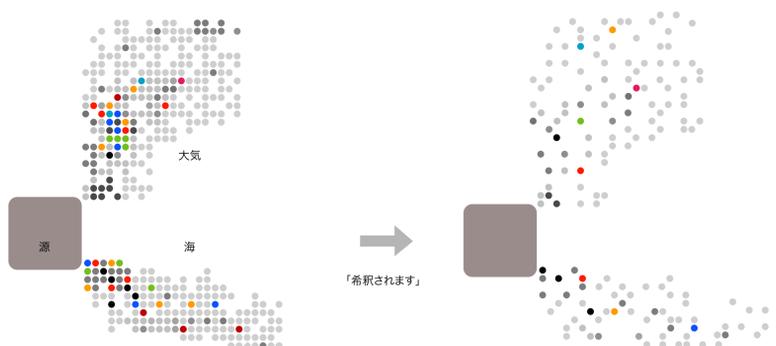
現実 vs データ： 卓上で希釈される放射能



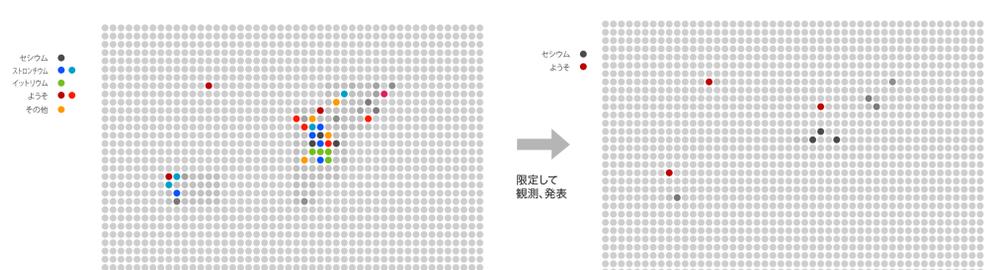
現実

データ

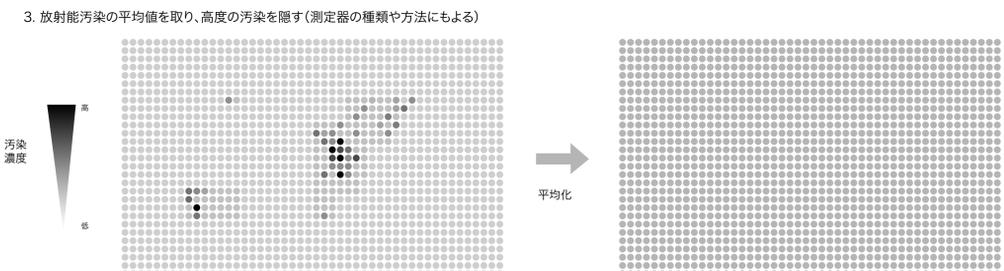
1. 放射能汚染が希釈されると説明



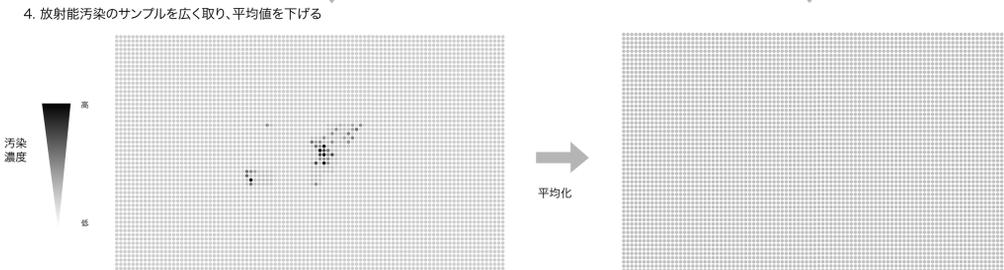
2. 限られた放射性物質のみを観測、発表



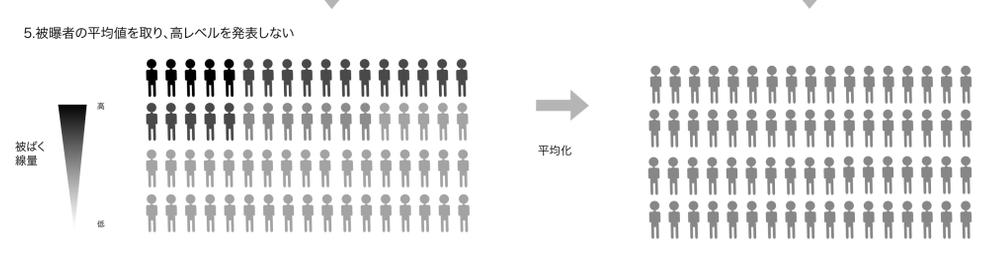
3. 放射能汚染の平均値を取り、高度の汚染を隠す(測定器の種類や方法にもよる)



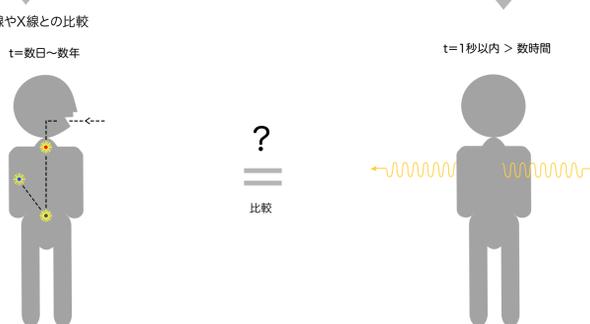
4. 放射能汚染のサンプルを広く取り、平均値を下げる



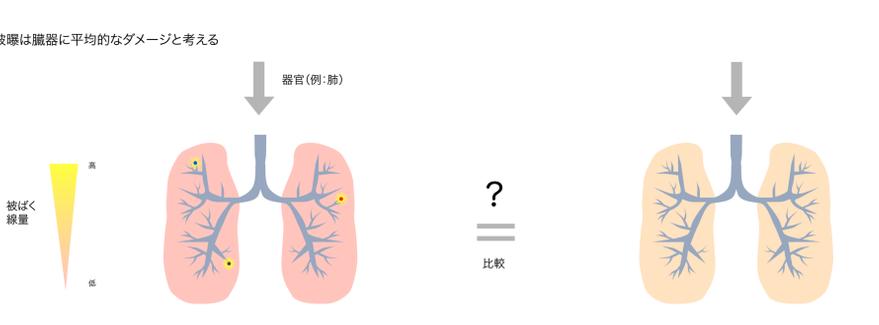
5. 被曝者の平均値を取り、高レベルを発表しない



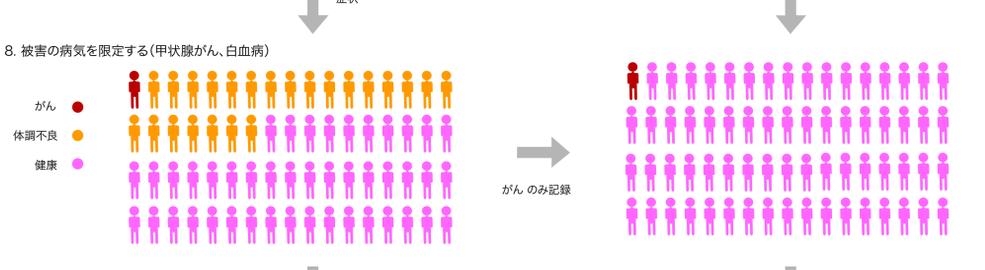
6. 人工の放射性物質による内部被曝を環境放射能やX線との比較



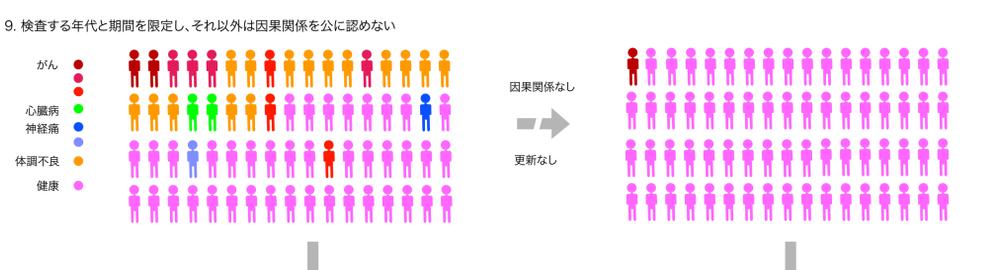
7. 内部被曝は臓器に平均的なダメージと考える



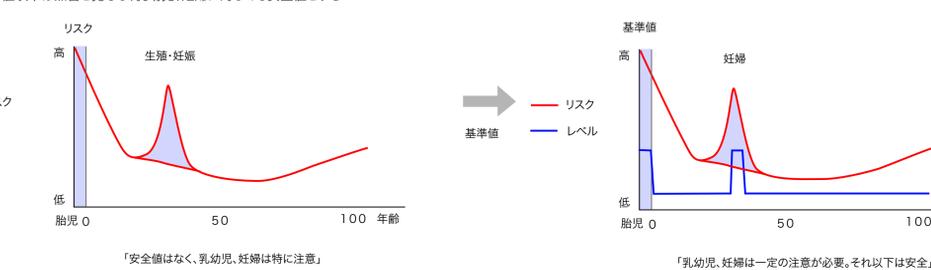
8. 被害の病気を限定する(甲状腺がん、白血病)



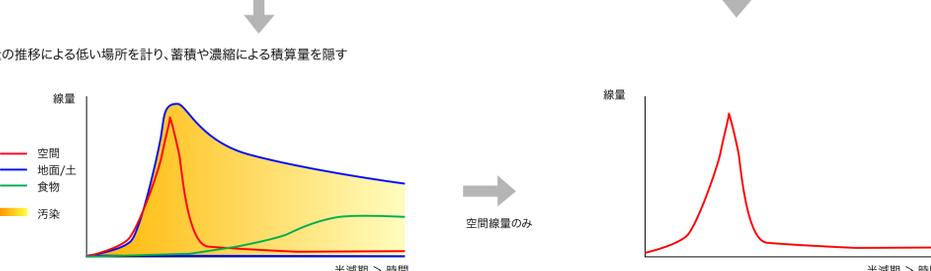
9. 検査する年代と期間を限定し、それ以外は因果関係を公に認めない



10. 基準値以下は無害と見なし、乳幼児、妊婦に対しても安全値とする



11. 線量の推移による低い場所を計り、蓄積や濃縮による積算量を隠す



12. 議論の溝

